



もっと詳しく知りたい人は二次元コードを読み取っていただき、市ホームページをご覧ください。

令和元年度 決算状況報告

(単位:%)

健全化判断比率				
指標	南あわじ市		早期健全化基準	財政再生基準
	R1年度	H30年度		
実質赤字比率 (普通会計の赤字から財政運営の深刻度を見る比率)	—	—	12.72	20.00
連結実質赤字比率 (全ての会計の赤字から財政運営の深刻度を見る比率)	—	—	17.72	30.00
実質公債費比率 (借金の返済額等の大きさから資金繰りの危険度を見る比率)	14.1	14.1	25.0	35.0
将来負担比率 (市が抱える負債の残高から将来財政への圧迫度を見る比率)	104.9	122.4	350.0	—

※赤字が生じない場合は、「—」と表示

(単位:%)

資金不足比率				
指標	南あわじ市		経営健全化基準	備考
	R1年度	H30年度		
資金不足比率 (企業会計の資金不足割合から経営状況の深刻度を見る比率)	—	—	20.0	会計ごとに算定

※資金不足が生じない場合は、「—」と表示

決算の概要

令和元年度の歳入は、昨年度と比較して、令和元年10月1日からの消費税率引き上げに伴い自動車取得税が廃止されたことによる自動車取得税交付金の減少や、市債繰上償還の財源とするための減債基金取りくずしの減による繰入金の減少などがありました。一方で、幼児教育無償化にかかる地方特例交付金の皆増やふるさと南あわじ応援寄附金(ふるさと納税)の増加などの影響により、全体では5.0%のプラスとなりました。

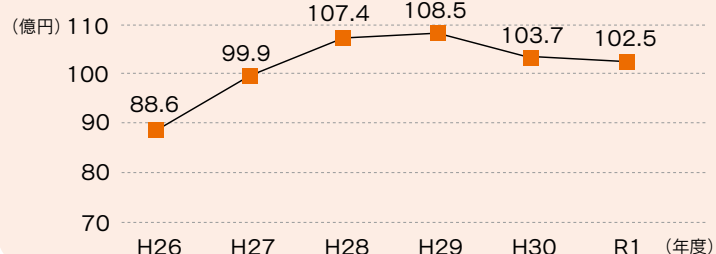
歳出では、昨年度と比較して、沼島焼却場解体撤去工事の完了など大規模事業の減による衛生費の減少がありました。一方で、市保育所改築工事による民生費の増加、畜産・酪農収益力強化整備等特別対策事業や瀬漁港浮桟橋改良工事に伴う農林水産業費の増加、賀集八幡防災公園整備工事による消防費の増加、三原中学校プール解体工事や小中学校ブロック塀改修工事による教育費の増加などにより、全体では4.9%のプラスとなりました。

基金残高 102 億 5,256 万円

特定の目的のために資金を積み立てたり、運用したりする市の「貯金」です。
(前年度比 1 億 1,482 万円減)

市民 1 人あたり 21 万 9,200 円

「基金残高の推移」

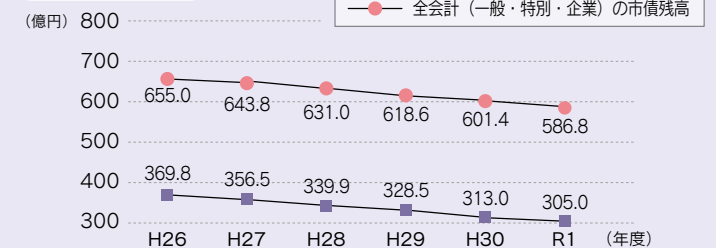


市債残高 304 億 9,332 万円

施設整備など大規模な事業を行う際に、銀行等から借入れた市の「借金」です。
(前年度比8億 1,104 万円減)

市民 1 人あたり 65 万 2,000 円

「市債残高の推移」



主な令和元年度事業



協働推進事業

総務費 2,129 万円
地域づくりチャレンジ事業補助金の交付等により、地域住民の主体的な事業を後押ししました。



市保育所改築事業

民生費 4 億 9,754 万円
市保育所改築事業が完了し、新たに「幼保連携型認定こども園市こども園」として開園しました。



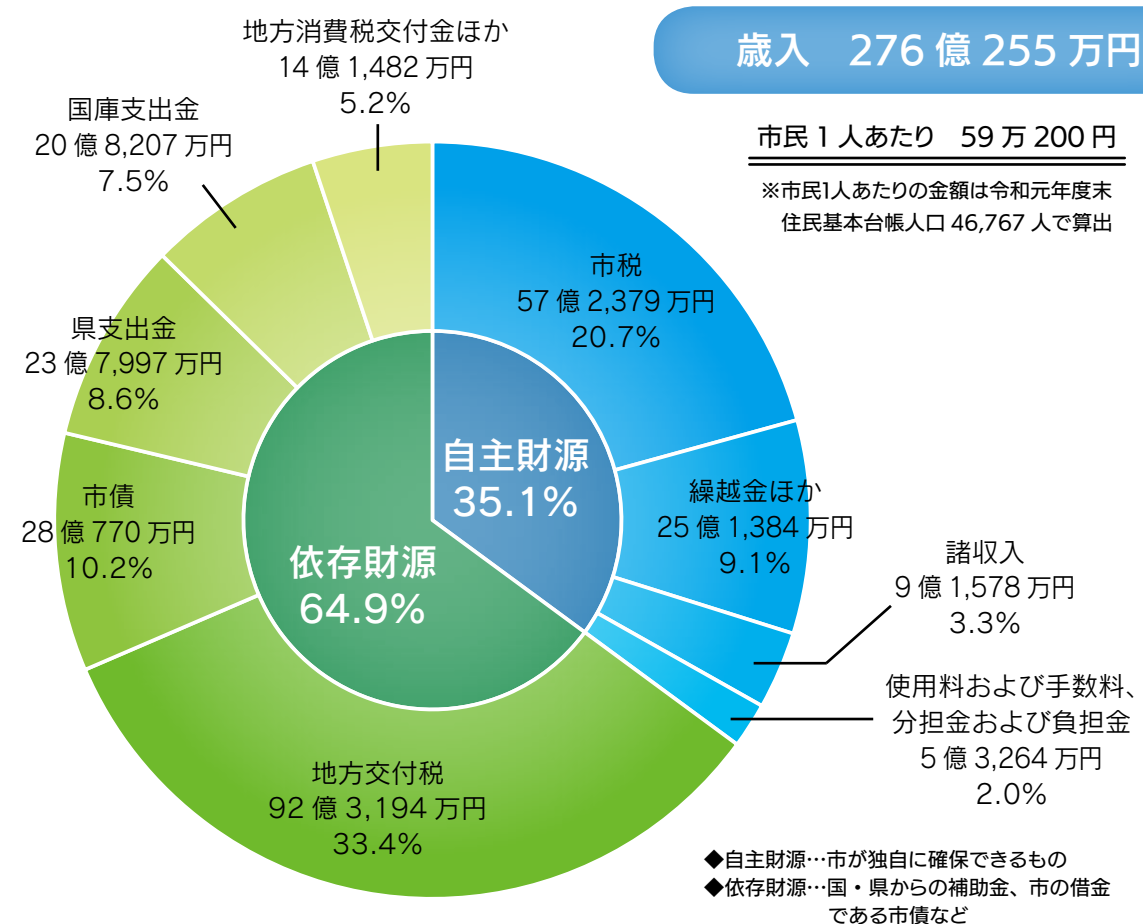
スクールチャレンジ事業

教育費 298 万円
各学校が重点的に取り組むべき課題を設定し、主体的に取り組み、特色ある学校づくりに努めました。



防災公園整備事業

消防費 1 億 1,826 万円
災害に備え、賀集八幡防災公園を整備し、安全・安心なまちづくりに努めました。



歳出 268 億 3,250 万円

市民 1 人あたり 57 万 3,700 円

令和元年度一般会計の決算額は、歳入が276億255万円、歳出が268億3250万円でした。そのうち、令和2年度へ事業を繰り越して使う財源を差し引いた実質収支は6億3377万円となり、黒字決算となりました。また、各種財政指数については、実質公債費比率は横ばい、経常収支比率、将来負担比率は改善となりました。今後も新たな市債の発行を抑制するとともに、自主財源の確保に努め、健全な行財政運営を行います。

